

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

山々から吹く風に揺れる葉枝のすき間からぞく青空、自然の主役は花から新緑へと交代した。近頃、ナチュラルファッションを好

む「森ガール」でも、オシャレに登山を楽しむ「山ガール」でもない、新たな木を育てるための「地ごしらえ」、苗木の一定間隔での「植え付け」、育成を妨げる雑草の「下刈り」や他の樹木の「伐採」、下枝を切り落とす「枝打ち」、成長促進させるための「間伐」、成長した樹木の「主伐」。森林を守り育てる現場に「森林女子」が増えていると大阪日日新聞のコラム潮騒さんが紹介した。

ももある。「景観十年、風景百年、風土千年」という言葉がある。里山の風景を、住民が大事にすれば、百年後には地域の風景に、さらに千年の歴史が積み重なれば、地域を象徴する大事な存在となる。

## 安全で、正しく、楽しいスポーツ活動の意義とは

まさに「森林女子」に注目だ。論語に「知水仁山」の言葉。知恵ある人は流動する水を樂しみ、慈悲ある人は不動の山に心を寄せるとある。今年、白馬山案内人組合が創立百周年を迎え、観光の原点である山、そのものに目を向けたものである。

5月中旬、大町で開催された第29回長野県中学生春季ソフトボール大会。13チームが参加したが、中信地区からの参加は無かった。特にジュニア期は指導者の言動に大きく影響を及ぼす。今回の大会で、監督の選手への言動で、選手達への影響を真剣に論議する場面には、身体的な暴力だ

けでは無く、精神的暴力や言葉の暴力を排除して行きたいとの思いが強く伝わってきた。選手達は、明るい大きな声で「お早うござい

ます」、「審判有難うございます」、「保護者には「応援ありがとうございませう」。また、帰りに際には、使用したグラウンドの整備や会場周辺を丁寧にゴミ拾い。その環境で育った子供たちが、活気ある長野県を築くことに期待したい。

(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

